

# 学長新任ご挨拶

九州工業大学学長 三谷 康範



## 新学長よりご挨拶

4月1日に学長に就任いたしました。愛媛に生まれ育ち、大学生活と教員生活初期を大阪で送り、九州工業大学には2003年に電気工学科の教授として着任しました。以来、環境マネジメントセンター長、グリーンイノベーション実践教育研究センター長として、専門である環境・エネルギー関連の業務に関わり、その後、イノベーション推進機構 産学連携・UR A領域長、理事・副学長として、産学連携分野の拡大のために奔走してきました。明専会員の皆様、これからも何卒よろしくお願いいたします。新型コロナウイルス感染症拡大や欧州の情勢不安など、少し先の未来を

も予測しにくい時代を私たちは歩んでおります。このような時代だからこそ、九州工業大学は、教育と研究、並びにそれを通じた社会貢献という大学の使命を一層果たしていかなければなりません。特に、時代の変化に対応できる人材育成こそが今、世の中に求められている本学の使命と考えております。技術の修得はもちろん、歴史を学び、異文化を理解・尊重し、芸術を愛し、自らの殻に閉じこもらないことが大切で、そのために本学は「専門領域」「大学」「国」「ジェンダー」あらゆる垣根を越えて知が接続される環境を目指します。これによって、多様な人と人、技術と技術が出会い、複雑化し続ける世界に貢献する新たな価値を生み出し、未来を考えることができる人材を輩出し続けることに努めます。

国立大学が法人化され第3期目となった2021年度までの6年間で、尾家前学長の強いリーダーシップの下、学外、とりわけ産業界や海外大学との連携を通して本学の組織力強化と教育研究高度化を実現し、社会との対話を通して情報発信力を強化するとともに社会から本学への信頼を醸成してきました。私も第3期の理事・総括副学長（研究・総務・国際・施設担当）として、共同研究講座の拡大、スタートアップ拠点の形成、教育環境のDX化のための基盤構築、博士学生のキャリア形成環境整備、海外戦略拠点の拡充といった仕掛けを整えてきました。さらに、キャンパス内にさまざまな成長の機会を創出する「未来思考キャンパス構想」の下、AI無人店舗、ローカル5Gに続き、ビヨンド5G(6G)、産学連携拠点GYMLABO、カーボンオフセットを考える環境エネルギーハウス、飯塚キャンパスの産学連携拠点ポルト棟といった環境を整備し、第4期は攻めの大学経営と運営が可能になったと感じております。

これからは、産学官・国際社会・地域などとの多様な連携と対話を通じて学生と一緒に教職員も成長し、チーム九工大（1+1=more than 2）として、九工大の構成員全員で社会の変化に対応でき、卒業後も学び続けることができる人材を育てていきます。産学連携については、組織間の大規模共同研究の推進に加えて、学生や社会人の人材育成の観点での連携を拡大します。その一環で社会連携講座制度を新設しました。海外との連携については、産業界も関与した国際連携、海外大学からの教育提供による講義科目の国際化、教員のネットワーク強化（若手の国際経験、クロスアポイントメント、スタートアップ）など新たなステータジに入っていく、教育と研究の国際化をますます強化していきます。また、在学中だけでなく卒業後も学び続けることができる環境を整えることも重要です。コロナ禍で充実したオンラインコンテンツを利用し、ソフトウェアをアップデートするよう、卒業後も継続的に学び続けられる仕組み作りに着手します。社会的価値と学術的価値を高め、会員の皆様の満足度を向上することによって本学の社会的価値を高めるべく全力を尽くす所存です。今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。